

令和5年8月3日から7日にかけての 大雨による治水事業の効果 (速報版)

※本速報に記載されている数値や図表等は令和5年8月9日時点の速報値であり、
今後変更となる可能性があります。

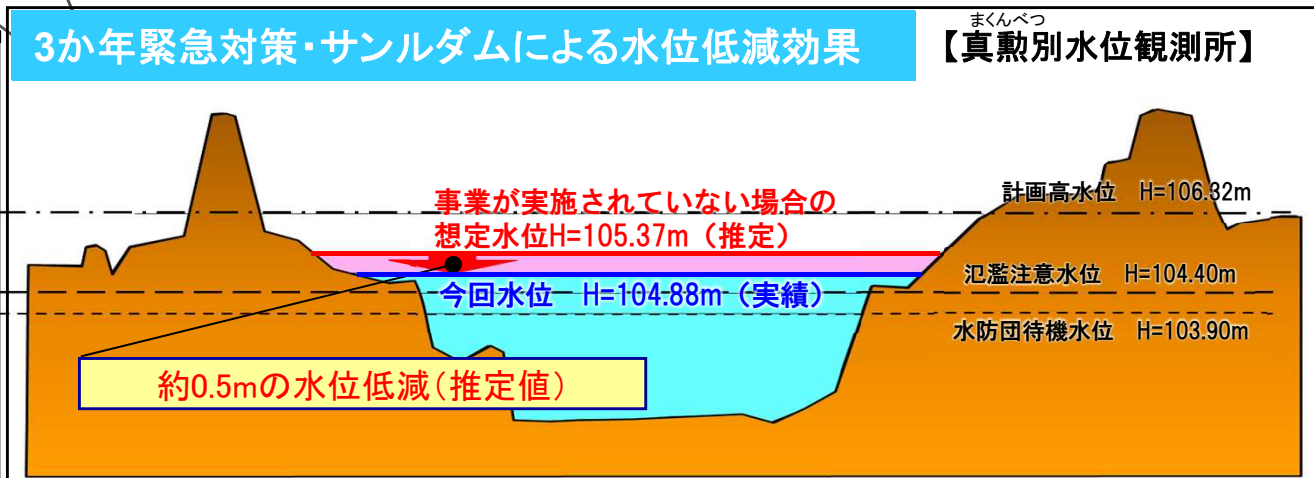
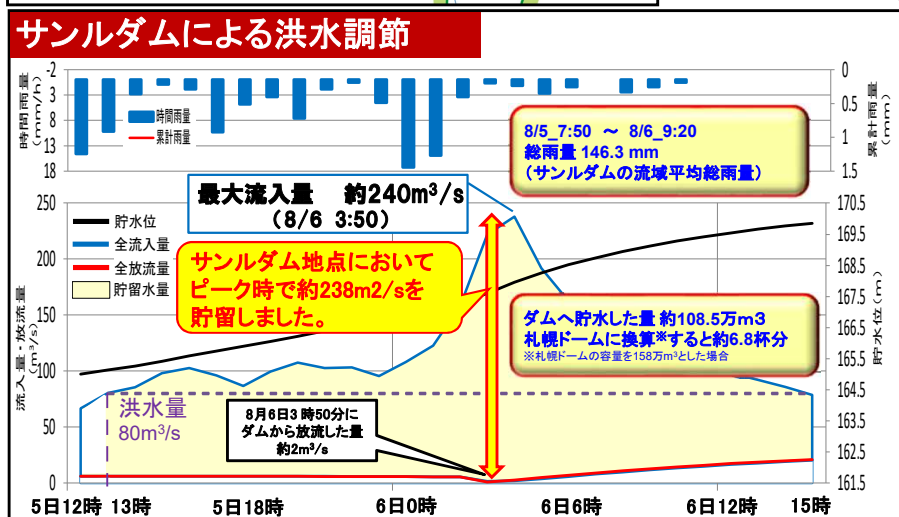
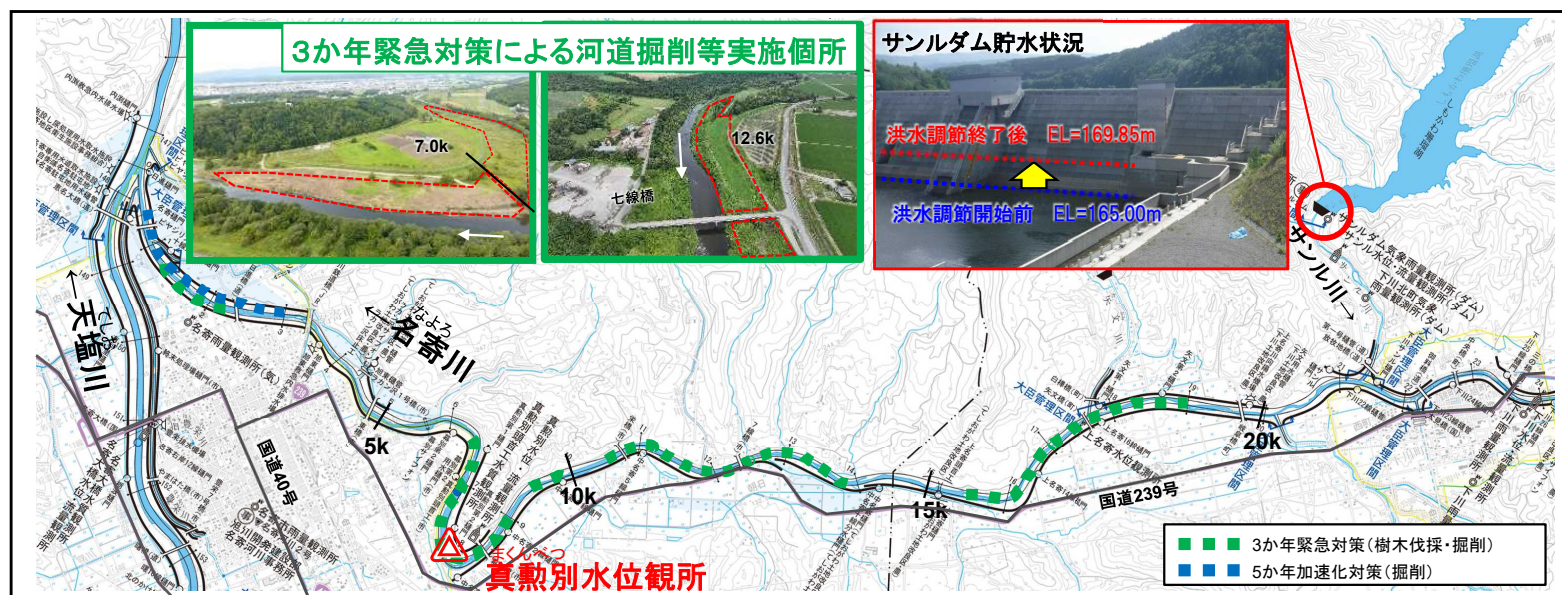
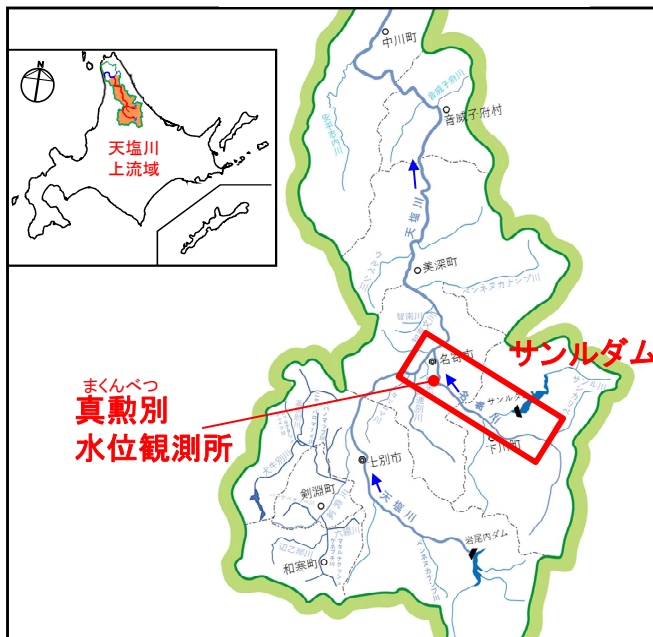
令和5年8月9日



治水事業の効果について(名寄川)

○8月3日から前線の影響により、北海道の広い範囲で大雨となりました。8月4日からの降雨は名寄川流域平均雨量で175.9mm/3日となり、戦後3番目の降雨を記録。名寄川の真勲別水位観測所では避難判断水位を超過しました。

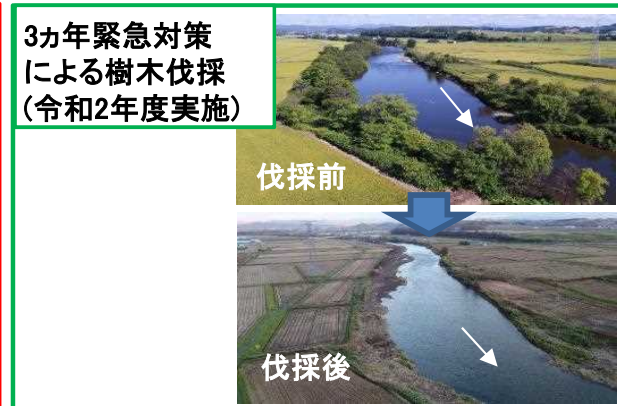
○名寄川では、これまでに「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」による、河道掘削等が行われており、併せてサンルダムの洪水調節の効果も発揮され、本洪水においては、真勲別水位観測所では、水位を約0.5m低下させたものと推定しました。



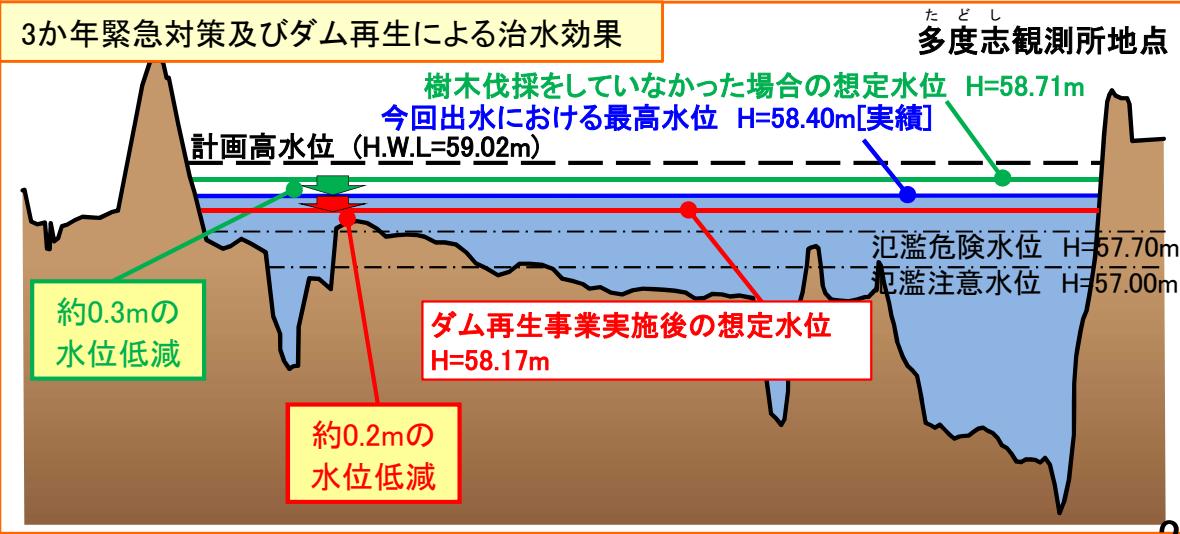
※ 本資料の数値、図表等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

治水事業の効果について(雨竜川)

- 8月3日から前線の影響により、北海道の広い範囲で大雨となりました。8月3日3時からの総雨量は幌加内町朱鞠内観測所で241mmを記録。雨竜川の多度志水位観測所では氾濫危険水位を超過して、平成30年出水と同規模の水位を記録。深川市、沼田町の一部に避難指示が発令されました。
- 雨竜川では、これまでに「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」による、樹木伐採が行われており、本洪水においては、多度志水位観測所付近で、水位を約0.3m低減させる効果があったものと推測されます。また、現在雨竜川上流で進めている雨竜川ダム再生事業が実施された場合、さらに水位を約0.2m低減させる効果があったと想定されます。
- 近年雨竜川流域では平成26年、平成28年、平成30年、令和2年と洪水が頻発しており、雨竜川ダム再生事業とあわせて北海道管理区間の雨竜川大規模特定河川事業を着実に進めているところです。



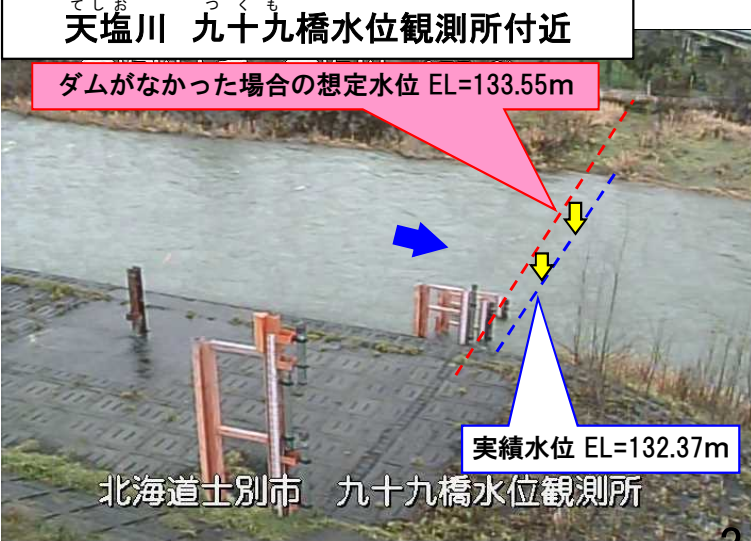
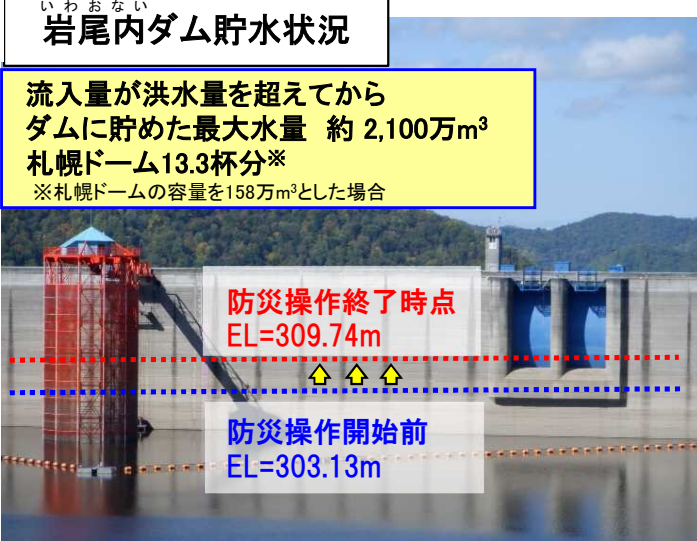
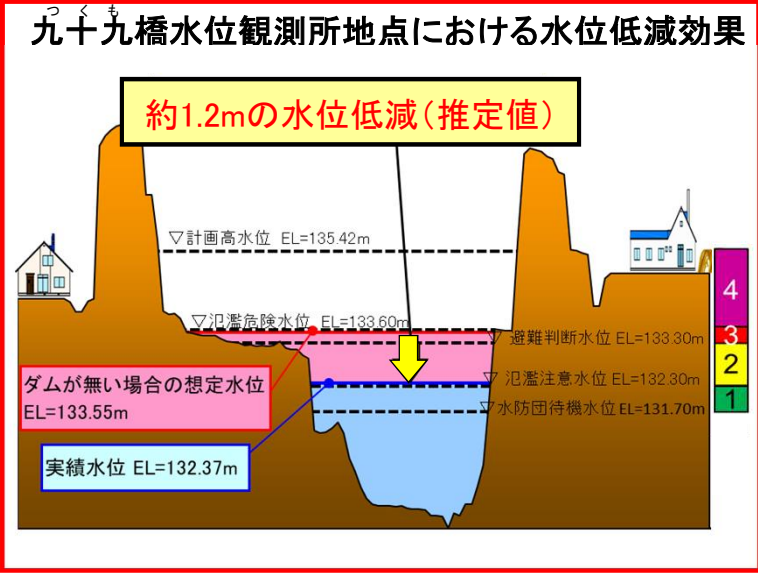
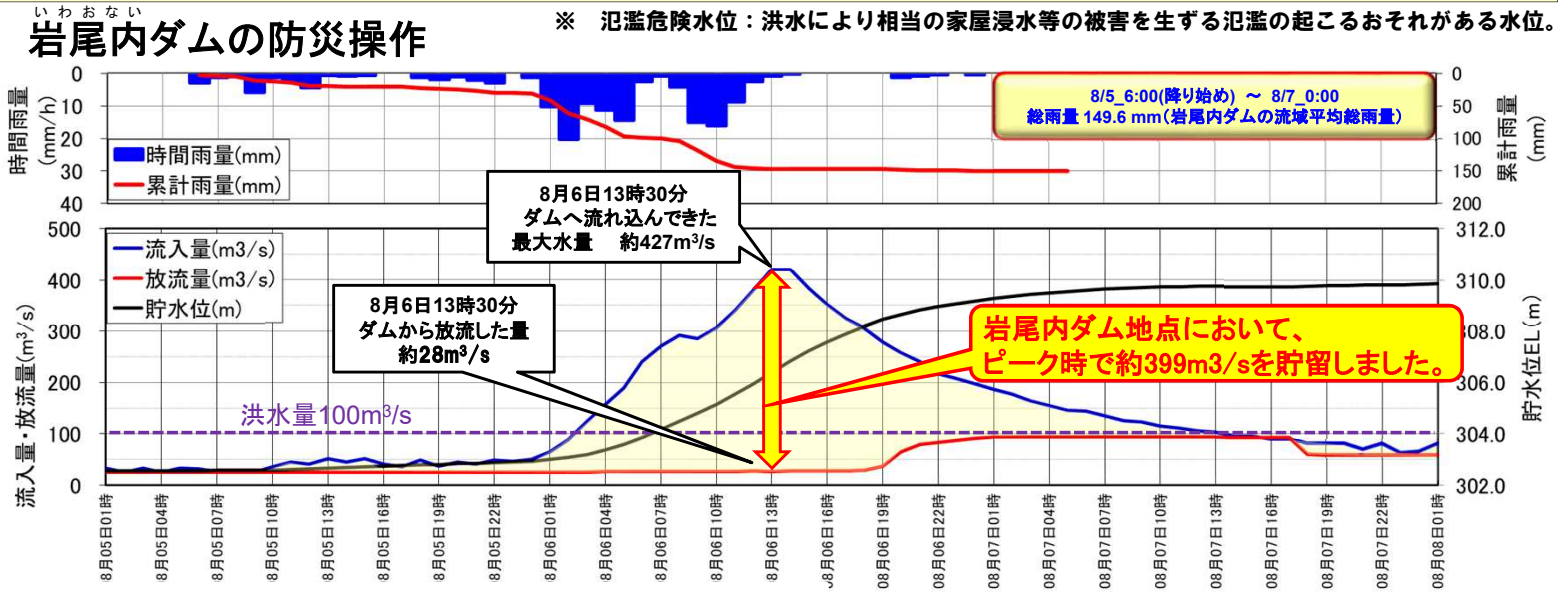
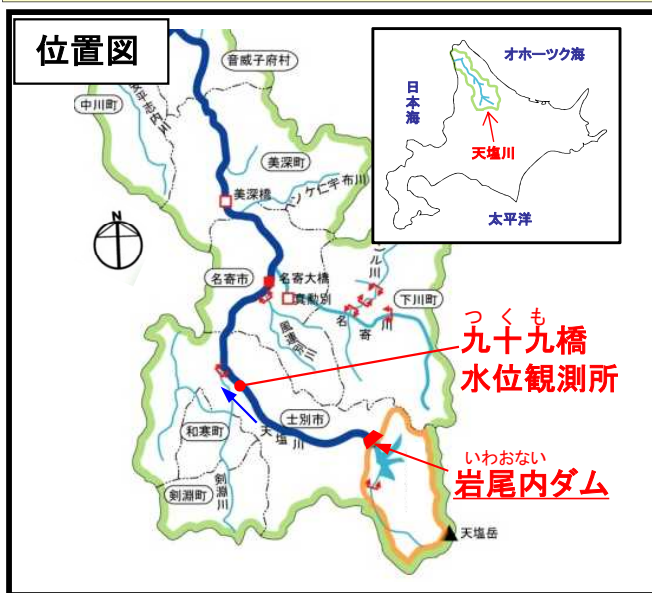
流域の被害状況	
浸水面積	約35ha(直轄区間)



※ 本資料の数値、図表等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

治水事業の効果について(岩尾内ダム)

- 令和5年8月5日～7日の降雨により、岩尾内ダムにおいては、既往第1位の流入量を観測しました。
- 岩尾内ダムの防災操作によって、ピーク時に約399m³/sを貯留し、下流河川の水位低減を図り、下流の士別市(九十九橋水位観測所)では、水位を約1.2m低減させる効果があったものと推測されます。
- 仮にダムが整備されていないならば、氾濫危険水位※に迫る出水となったことが想定されます。



※ 本資料の数値、図表等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。